

## ヨハネの手紙第一

### §2 救いに関する3つの検証(2:3-29)[その3]

#### 前回の復習

1. ヨハネがこの手紙を書いた(また、さらに書き進めていく)理由は、読者たちに救いを確信させるためである。彼は読者たちを霊的成熟度に応じたグループに分け、それぞれに呼びかけた。
  - (1) 子どもたち=救われたばかりの人たち、霊的幼子たち：彼らは罪赦されて新しく生まれたとき、神を「アバ、父」として知った。
  - (2) 父たち=信仰体験が長く、霊的に成熟した人たち：彼らの神に関する知識は深められており、神が「初めからおられた」方であることをよく知っている。
  - (3) 若い者たち=霊的成長の途上にいる人たち：彼らは世における霊的戦いの中に置かれているが、ヨハネは彼らについて既に「悪い者に打ち勝った」ことを強調している。
2. 既に救われた者は、世を愛すべきではない。
  - (1) 「世 *kosmos*」は、サタンの支配下にある世界の秩序のことである。
  - (2) 世を愛している (*agapaō*) なら、その人のうちに御父を愛する愛はない。
  - (3) 世は滅び去るが、神のみこころを行う者はいつまでもながらえる。

### §2 救いに関する3つの検証(2:3-29)[その3]

#### 3. 神学的検証:御子への信仰(2:18-29)

##### はじめに (1) 2:18-29 について

1. ヨハネの手紙のテーマは、「救いの確信」である。2:3以降、読者の救いを確信させるための「3つの検証」が続いている。
2. 2:18-29では、3番目の検証である「神学的検証」が語られている。
  - (1) これは、御子イエス・キリストへの信仰こそが救いのしるしである、という内容の検証である。
  - (2) ヨハネは5:5に至るまで3つの検証を掘り下げていくが、神学的検証は必ず最後に取り上げられている。それだけ重大なテーマである。

## はじめに (2) 終末論について

- 2:18 で、ヨハネは終末論に触れている。
  - 終末論とは、「終わり」についての教えである。
  - ヨハネは特に、世の終わりについての終末論に触れている<sup>1</sup>。
- 終末論は、無視されたり、極端に簡単に教えられたり、もしくは極端に複雑に教えられたりしていることが多い。しかし、聖書は終末論をしっかりと扱っているため、信者はこれを十分に学ぶべきである。
- ここでは、終末論を以下のように2分類してみたい<sup>2</sup>。
  - 楽観的終末論**

世の終わりには、キリストのからだである教会の影響力が増していき、福音が宣べ伝えられることで悪に打ち勝っていくという終末論。こういった立場では、教会の働きにより世界が良くなった後でキリストが再臨すると考えられていることが多い。
  - 悲観的終末論**

世の終わりに向かうにつれ、地上の悪は増大していくという終末論。こういった立場では、地上の悪がピークに達したときにキリストが再臨すると考えられていることが多い。
- 楽観的終末論も、悲観的終末論も、キリストの再臨を待望している点では希望に満ちた終末論である。しかし、聖書の多くの箇所は、再臨の前に悪が増大していくことを教えている（ダニ 9:24-27、ゼカ 12-14 章、マタ 24 章など）。
- ヨハネは 2:18-23 において、「反キリスト」の来ること、また偽り者の出現が「終わりの時」のしるしであると教えている。これは、悲観的終末論とよく調和する考えである。
- 終末論は、信者の世界観や聖書観を左右する。

---

<sup>1</sup> 終末論は、「個人の未来に控えている体験」である個人的終末論と「人類の未来に、ひいては全被造物の未来に控えている体験」である宇宙論的終末論に細分することができる（ミラード・J・エリクソン『キリスト教神学』第4巻、森谷正志訳、宇田進監修 [いのちのことば社、2006年] 370頁）。Iヨハ 2:18で触れられている「終わりの時」とは、宇宙論的終末論に則った概念である。

<sup>2</sup> 筆者による個人的な分類である。千年王国の扱いに基づく終末論の一般的分類と対応させると、千年期後再臨説（Postmillennialism）は楽観的終末論と符合し、無千年期説（Amillennialism）および千年期前再臨説（Premillennialism）は悲観的終末論と符合するものと考えられる。

### 3-1. 真理と偽り (2:18-23)

2:18 小さい者たちよ。今は終わりの時です。あなたがたが反キリストの来ることを聞いていたとおり、今や多くの反キリストが現れています。それによって、今は終わりの時であることがわかります。

1. イエス・キリストが来られて以来、私たちは「終わりの時」を生きている。
  - (1) イエスは、創世記以降、旧約聖書を通して待望されていたメシアである。彼が来られたことで、「神の人類救済計画」は「最後の段階」に突入している<sup>3</sup>。
  - (2) イエスの再臨を待ち望むことは、「終わりの時」の終わりを待ち望むことである。
  
2. 「反キリスト *antichristos*」という言葉について
  - (1) この言葉は、Iヨハ2:18、22、4:3；IIヨハ7にだけ使われている。
  - (2) 「反 *anti*」は「敵対する」という意味もあるが、「代理」という意味もある。

「反キリストは本質的にはキリストの代わりを務めようとする者であるが、実は欺瞞的詐称者であって、キリストの敵でさえもあり得ない。」(ジョン・ストット)<sup>4</sup>
  
3. 「反キリスト」という人物について
  - (1) 聖書は、キリストに敵対する一人の指導者が現れることを教えている。
  - (2) 旧約聖書の例：ダニ 9:27

彼は一週の間、多くの者と堅い契約を結び、半週の間、いけにえとささげ物とをやめさせる。荒らす忌むべき者が翼に現れる。ついに、定められた絶滅が、荒らす者の上にふりかかる。
  - (3) イエスの教え：マタ 24:15-16

それゆえ、預言者ダニエルによって語られたあの『荒らす憎むべき者』が、聖なる所に立つのを見たならば、(読者はよく読みとるように。)そのときは、ユダヤにいる人々は山へ逃げなさい。
  - (4) パウロの教え：IIテサ 2:3-4

だれにも、どのようにも、だまされないようにしなさい。なぜなら、まず背教が起こり、不法の人、すなわち滅びの子が現われなければ、主の日は来ないからです。彼は、すべて神と呼ばれるもの、また礼拝されるものに反抗し、その上に自分を高く上げ、神の宮の中に座を設け、自分こそ神であると宣言します。

<sup>3</sup> 中川健一『ヨハネの手紙第一「救いを得る喜び」』2016年聖書フォーラムキャンプ配布資料(ハーベスト・タイム・ミニストリーズ、2016年)10頁

<sup>4</sup> ジョン・R・W・ストット『ティンデル聖書注解 ヨハネの手紙』千田俊昭訳(いのちのことば社、2007年)117頁

4. ヨハネは、ひとりの「反キリスト *antichristos*」(単数形)と、多くの「反キリスト *antichristoi*」(複数形)を区別している。

- (1) 彼らは偽りの教えを広めている者たちである。
- (2) 将来一人の反キリストが現れるが、その霊は既に多くの人々に働いている。

I ヨハ 4:3

イエスを告白しない霊はどれ一つとして神から出たものではありません。それは反キリストの霊です。あなたがたはそれが来ることを聞いていたのですが、今それが世に来ているのです。

- (3) 反キリストに先立って偽の教えを伝える者たちが現れることは、イエスやパウロも教えていた。

マタ 24:4-5

そこで、イエスは彼らに答えて言われた。「人に惑わされないように気をつけなさい。わたしの名を名のる者が大ぜい現われ、『私こそキリストだ。』と言って、多くの人を惑わすでしょう。

II テサ 2:6-8

あなたがたが知っているとおりに、彼がその定められた時に現われるようにと、いま引き止めているものがあるのです。不法の秘密はすでに働いています。しかし今は引き止める者があって、自分が取り除かれる時まで引き止めているのです。その時になると、不法の人が現われますが、主は御口の息をもって彼を殺し、来臨の輝きをもって滅ぼしてしまわれます。

5. 「多くの反キリスト」が現れていることで、今が「終わりの時」であることがわかる。

2:19 彼らは私たちの中から出て行きましたが、もともと私たちの仲間ではなかったのです。もし私たちの仲間であったのなら、私たちといっしょにとどまっていたことでしょう。しかし、そうなったのは、彼らがみな私たちの仲間でなかったことが明らかにされるためなのです。

2:20 あなたがたには聖なる方からのそそぎの油があるので、だれでも知識を持っています。

1. 「多くの反キリスト」は、ヨハネのいた教会から去っていった。
2. それは、「彼らがみな私たちの仲間でなかったことが明らかにされるため」であった。
  - (1) 彼らは「イエスが人として来られたまことの神である」という教えを受け入れていなかった。
  - (2) 彼らが教会から去っていったことで、偽り者であることが明らかになった。

(3) これによって、残った信者たちは守られたと言うこともできるだろう。

3. 残ったまことの信者たちには、「聖なる方からのそそぎの油」がある。

(1) これは聖霊のことである。信者はその内側に聖霊をいただいている。

(2) II コリ 1:21-22

私たちがあなたがたといっしょにキリストのうちに堅く保ち、私たちに油を注がれた方は神です。神はまた、確認の印を私たちに押し、保証として、御霊を私たちの心に与えてくださいました。

(3) エペ 1:13

またあなたがたも、キリストにあって、真理のことは、すなわちあなたがたの救いの福音を聞き、またそれを信じたことによって、約束の聖霊をもって証印を押されました。

(4) ヨハ 14:17

その方は、真理の御霊です。世はその方を受け入れることができません。世はその方を見もせず、知りもしないからです。しかし、あなたがたはその方を知っています。その方はあなたがたとともに住み、あなたがたのうちにおられるからです。

4. イエスをまことの救い主として受け入れている者は、「真理の御霊」からの知識をいただいているから信じていることができる。

(1) すなわち、イエスをまことの救い主として受け入れているならば、自分が神からまことの信仰を賜っており、救われているのだということがわかる。

(2) I ヨハ 4:2

人となって来たイエス・キリストを告白する霊はみな、神からのものです。それによって神からの霊を知りなさい。

(3) エペ 2:8

あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。

2:21 このように書いて来たのは、あなたがたが真理を知らないからではなく、真理を知っているからであり、また、偽りはすべて真理から出てはいないからです。

2:22 偽り者とは、イエスがキリストであることを否定する者でなくてだれでしょう。御父と御子を否認する者、それが反キリストです。

2:23 だれでも御子を否認する者は、御父を持たず、御子を告白する者は、御父をも持っているのです。

1. ヨハネは再び読者たちに対し、彼らが真理を知って救われていることを思い出させようとしている。
  - (1) 手紙の読者たちは、偽りの教えを広める異端の者たちに悩まされていた。
  - (2) ヨハネは、異端の者たち（偽教師たち）が「多くの反キリスト」であると断言した。これによって、読者たちの信仰を励まそうとしているのである。
  - (3) 偽教師たちの「偽りはすべて真理から出てはいない」が、読者たちは「真理を知っている」。
  - (4) ここでの「知っている *oidate*」は、体験的というよりは直感的に知っているという意味合いが強い。
  - (5) 信者は、聖霊によって信仰が与えられた結果、御子に関する真理を直感的に理解しているのである。これは「偽り者」とは対照的である。
2. 「多くの反キリスト」の特徴は、「イエスがキリストであることを否定する」ことである。
  - (1) 彼らは、神であるキリストが人間でもあることを拒否していた。
  - (2) これは、御父をも御子をも否定することである。
3. 御子を否認する者は、御父を持たず、御子を告白する者は、御父をも持っている。
  - (1) 御父と御子イエスを切り離して考えることは不可能である。
  - (2) 人であるイエスを神として受け入れない者は、父なる神をも受け入れていない。
  - (3) イエスを神として信じている者は、父なる神を受け入れており、三位一体の神の交わりに入れられているのである。

## まとめ

- ・ イエスがキリストであることを否定する「多くの反キリストたち」（偽教師、偽キリストたち）が現れていることで、今が「終わりの時」であることがわかる。
- ・ イエスがキリストであることを信じる者たちは、自分たちが救われているのだと確信することができる。なぜなら、そのような信仰は聖霊によって与えられるものだからである。
- ・ 信者たちには聖霊が与えられている。よって、彼らは真理を直感的に理解している。
- ・ イエスがキリストであることを信じる者たちは、イエスとひとつである父なる神をも信じている。よって、彼らは三位一体の神の交わりに入れられている。